

「聖なる川に」 来春稼働へ

三島のNPO「ネパールに「バイオトイレ」

ネパール・カトマンズの世界文化遺産でヒンズー教の聖地「パシュパティナート寺院」を流れるバグマティ川を浄化しようと、三島市のNPO法人「グラウンドワーク（GW）三島」がバイオトイレを設置する。来春に稼働する計画だ。富士山での環境改善などで培ったノウハウをネパールに持ち込み、川の再生に貢献する。
(佐久間博康)



激しい汚濁が進み環境問題が深刻なバグマティ川。ネパール・カトマンズ市で（いずれもグラウンドワーク三島提供）

バグマティ川は、ヒンズー教徒にとって聖なる川で、死後は散骨か死体を川につけないと天国に行けないとされている。だが、参拝者や近隣住民による尿や生活排水が大量に垂れ流され、激しい汚濁が進み深刻な問題となっている。

バイオトイレは、杉のチップと微生物で汚物を二酸化炭素（CO₂）と水に分解する仕組みだ。GW三島は富士山に設置し、一九九〇年代にし尿やトイレットペーパーが山肌へはびりつく「白い川」の問題解決に尽力した。三島市の源兵衛川の再生にも取り組んだ。

バグマティ川にバイオトイレを設置する計画は二〇一五年、GW三島の活動に注目したネパールの関係者から要請があり、動き出した。だが同年四月二十五日のネパール大地震の影響で延期に。GW三島は被災者支援のため、同年十一月に山間部の避難所にバイオトイレを設置し、避難所の環境改善に一役買った。

大地震から四年が経過し復興が進みつつあることから、今回、ネパールの関係者から再びバグマティ川へ

富士山美化ノウハウ活用



バイオトイレ設置の段取りを確認するグラウンドワーク三島やネパール・日本友好協会、ネパール関係者＝三島市内で

の設置の打診があった。

設置予定のバイオトイレは一日当たり八百人分のし尿を処理できる分解槽一基と仮設トイレ十基。七月からネパールで現地調査や測量、政府や寺院といった関係機関との調整をした上で、十一月に日本からバイオトイレを船で運搬する。

来年二月にネパールに着後、設置工事を経て、同年三月から稼働させる。これに合わせて、川に重機を入れ、たい積したヘドロを取り除く作業も行う。

今月九日、三島市内でGW三島、ネパール・日本友

好協会、ネパールの関係者が打ち合わせを行い、バイオトイレ設置に向けた段取りを確認した。GW三島の渡辺豊博専務理事（左）は「これまで培ってきたノウハウを生かし汚れた川を清流に変えたい」と意気込む。

ネパール側のまとめ役を務めるバグマティカレッジ理事のアスミン・シユトラさん（右）は「富士山のし尿問題を解決したバイオトイレを設置することを通して、ネパールでの水質改善

・水辺再生の適切な解決策が見つかることを期待している」と語った。